

黒石市 六次産業化推進戦略



平成30年3月
青森県黒石市

目 次

第1章 黒石市六次産業化推進戦略策定の趣旨

1. 戦略策定の目的
2. 目標年度
3. 進行管理

第2章 黒石市の概況

1. 立地条件
2. 人口等の動向
3. 黒石市の産業の現状と課題

第3章 黒石市における六次産業化の現状と課題

1. これまでの市の取組
2. 農業者等の取組状況と課題

第4章 六次産業化の推進

1. 基本目標
2. 推進方策と推進体制
3. 黒石版商品づくり推進イメージ
4. 地域の特性を生かした作物の振興
5. 推進目標値
6. その他

第1章 黒石市六次産業化推進戦略策定の趣旨

1. 戦略策定の目的

黒石市は、えぞ地であった昔から、水清く人情のあついあずましの里として栄え、「米とりんごといで湯」を誇り、「よされ、ねぷた」を愛してきたまちです。豊かな自然と豊富な温泉に恵まれ、味の良い「黒石米」と「黒石りんご」の産地として知られる古くからの城下町であるように、一次産業が盛んであり、農産物は市内を始め全国に広く流通しています。

しかし、米価の低迷などにより、農家数の減少や農業者の高齢化が進んでいる状況にあり、農業生産額の減少や担い手不足が課題となっています。また、工業や商業においても、平成20年のいわゆるリーマンショック以降、デフレや消費の落ち込みなどの影響により、一部を除き製造品出荷額や販売額は伸びていない状況です。

平成23年度からスタートした「第5次黒石市総合計画」において、4つの重点プロジェクトを設定し、本市の課題解決の取り組みを積極的に進めているところです。この計画に基づき、平成27年度には、「黒石市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、実施計画（アクションプラン）を明確に位置づけ、政策分野の1つを「田園観光産業都市黒石市におけるしごとづくり」とし、その中の主な個別施策には、「食ビジネスの振興」を掲げ、本市の基幹産業である農業の生産基盤の強化を図りながら、農産物のブランド化や六次産業化・農商工連携を推進して地元農産物を使用した加工品の開発・販売などを支援し、「食」をはじめとした新たな産業の基盤づくりに努めることとしています。

市では、これらを円滑に進め、六次産業化等を地域ぐるみで推進するため、農業者、食品産業、観光産業、教育機関、研究機関及び行政で構成する黒石市六次産業化・地産地消推進協議会を設置し、「黒石市六次産業化推進戦略（以下「推進戦略」という。）」を策定して、推進戦略に沿って六次産業化の取り組みを行う農業者等に対する支援体制を整備し、黒石市の特徴ある地域資源を活用した、付加価値や差別化が図れる新しい六次産業化商品の開発・販売等を進め、黒石市の食産業の活性化を推進することを目的とします。

2. 目標年度

推進戦略期間 平成30年度から平成34年度まで

3. 進行管理

黒石市六次産業化・地産地消推進協議会は、地域資源を活用した六次産業化や農商工連携等の取り組みを推進し、推進戦略で掲げる成果目標の達成状況等を把握するとともに、必要に応じて内容の見直しや改善を図るものとする。

第5次黒石市総合計画

黒石市まち・ひと・しごと創生総合戦略

政策分野 1

食ビジネスの振興

★黒石市六次産業化推進戦略

田園観光産業都市黒石市におけるしごとづくり

政策分野 2

田園観光産業都市黒石市への

新たなひとの流れづくり

政策分野 3

若い世代の結婚・出産・子育ての希望づくり

政策分野 4

健康都市宣言に基づく健康づくりと

「黒石力」(＝コミュニティ力)を活かした地域づくり

第2章 黒石市の概況

1. 立地条件

(1) 位置・範囲

本市は、青森県の中央部に位置し、南東は平川市、西は田舎館村、北は県庁所在地である青森市に隣接する。東西に23.3km、南北に17.5km、で面積は217.05km²となっている。

(2) 自然

①地形

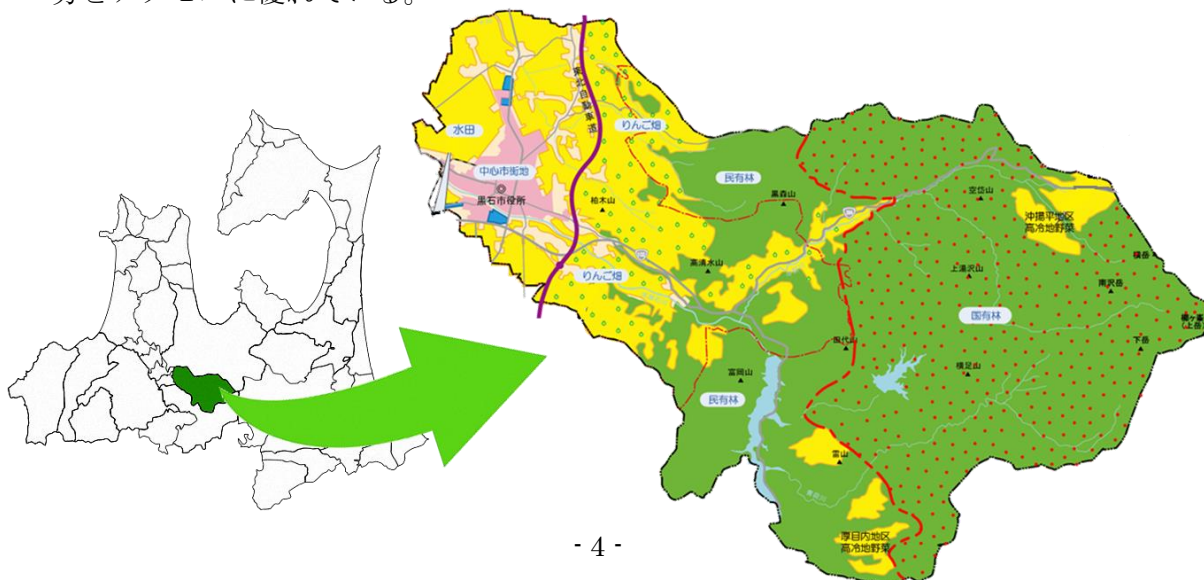
北西から南東を長軸としたひょうたん状で、総面積の約8割を占める東部の山岳地帯は八甲田連峰に連なり、西部の平坦部は津軽平野の一部をなしている。主な河川は、一級河川・浅瀬石川が市街地南部を流れているほか、その支流として中野川、青荷川、二庄内川がある。

②気候

日本海型気候に属し、三方が山に囲まれた盆地形の気象である。年間平均気温は10.7℃、冬季は偏西風が強く寒冷で、特別豪雪地帯に指定されている。

(3) 交通

東北自動車道が市街地東部を縦貫し、東西には県土を横断する国道102号、394号が整備されている。本市と弘前市とを結ぶ弘南鉄道が公共交通機関として整備されている。また、十和田湖の西玄関口にあたり、青森空港や東北新幹線新青森駅まで約30分とアクセスに優れている。



2. 人口等の動向

平成27年国勢調査によると、人口は34,284人、世帯数は11,770世帯で、1世帯当たり人口は2.912人となっている。

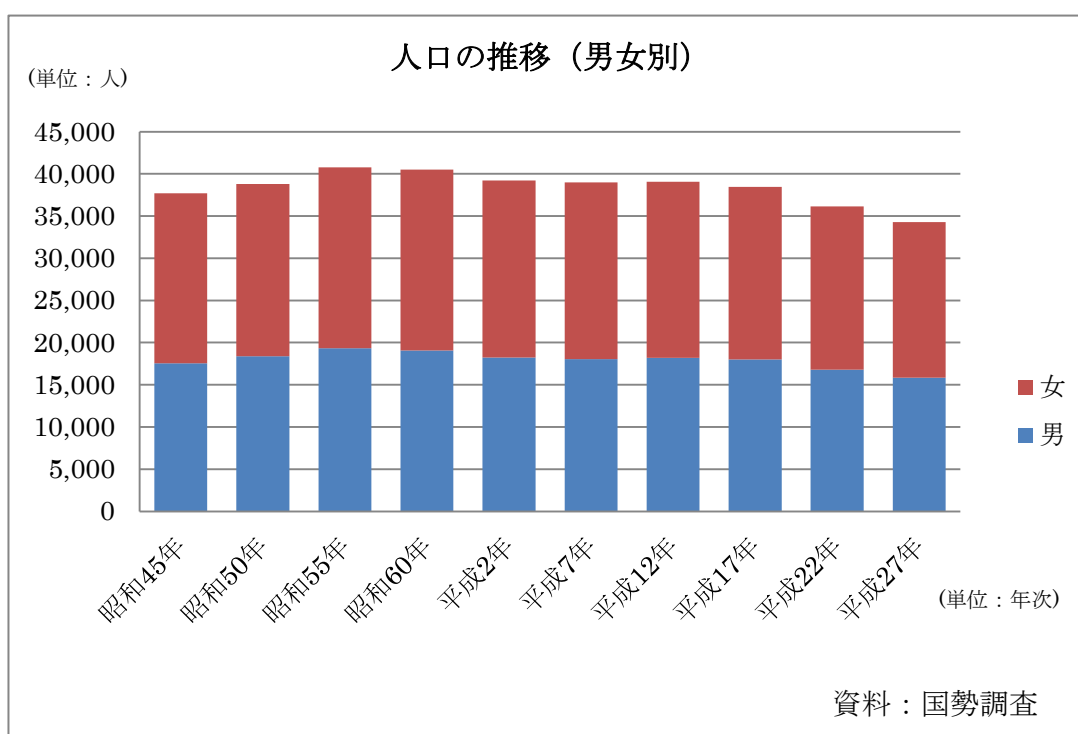
本市の人口は、昭和45年以降著しく増加したが、昭和55年をピークに減少傾向へ転じているが、近年は大きな変動は見られない。また、世帯数は昭和40年以降増加し続けているが、人口の増減に関わらず1世帯当たりの人口は減少している。

人口と世帯数の推移

(単位：世帯・人)

年次	世帯数	人 口			1世帯当たり人口
		計	男	女	
昭和45年	8,869	37,690	17,563	20,127	4.250
昭和50年	9,645	38,796	18,383	20,413	4.022
昭和55年	10,307	40,755	19,317	21,438	3.954
昭和60年	10,673	40,501	19,063	21,438	3.795
平成2年	10,775	39,213	18,236	20,977	3.639
平成7年	11,074	39,004	18,030	20,974	3.522
平成12年	11,637	39,059	18,213	20,846	3.356
平成17年	11,843	38,455	17,996	20,459	3.254
平成22年	11,794	36,132	16,807	19,325	3.063
平成27年	11,770	34,284	15,834	18,450	2.912

資料：国勢調査



3. 黒石市の産業の現状と課題

(1) 産業構造の推移

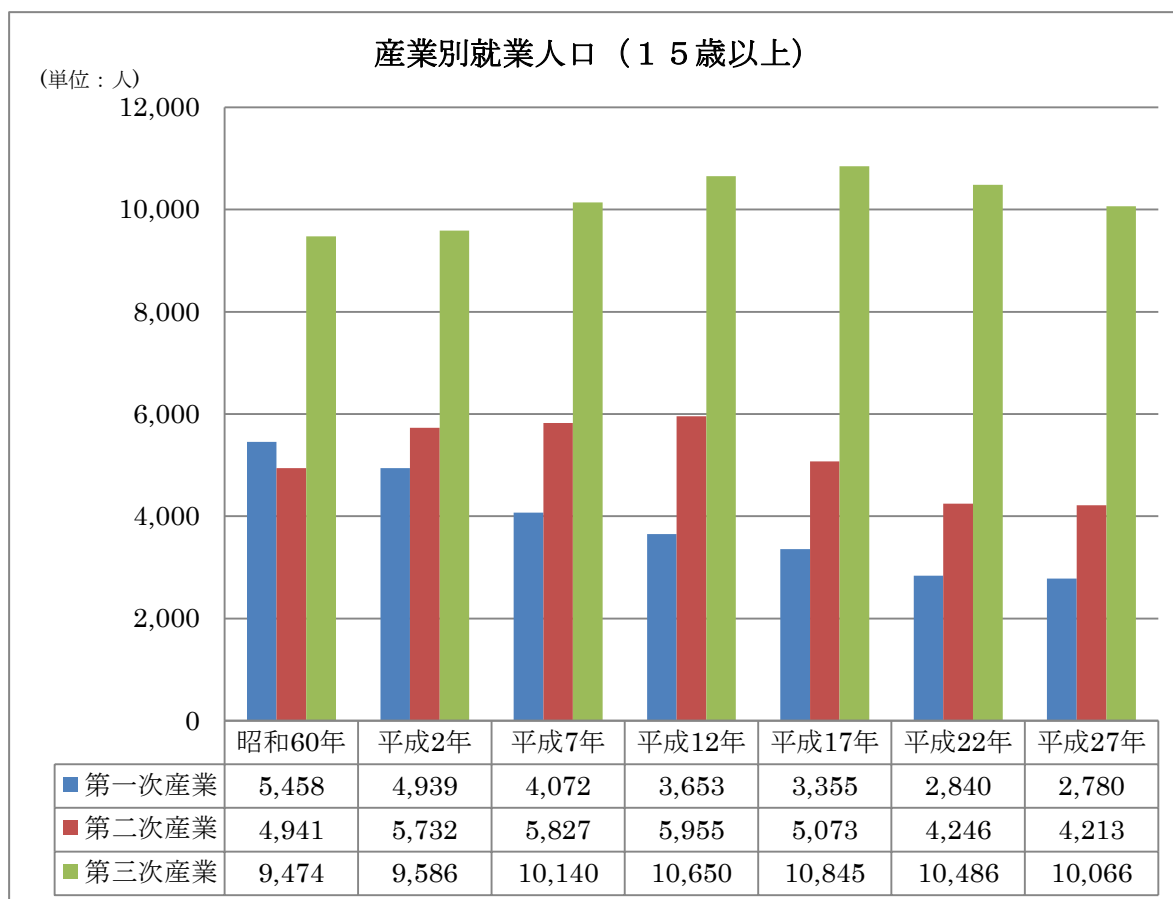
本市の基幹産業である第一次産業の就業人口は年々減少し、昭和60年に27.5%あった構成比は、平成27年では、15.8%まで減少しています。第二次産業の就業人口構成比は微減していますが、ほぼ横ばい傾向で推移しています。第三次産業は平成7年の国勢調査以降、増減を繰り返しながらも構成比50%以上を保ち推移しています。

産業別就業人口（15歳以上）

(単位：人)

産業別	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
農業	5,312	4,824	3,980	3,591	3,311	2,804	2,747
林業	123	103	85	59	43	33	33
漁業	23	12	7	3	1	3	—
第一次産業計	5,458	4,939	4,072	3,653	3,355	2,840	2,780
鉱業	44	18	6	29	17	25	19
建設業	2,545	2,355	2,689	2,694	2,243	1,676	1,664
製造業	2,352	3,359	3,132	3,232	2,813	2,545	2,530
第二次産業計	4,941	5,732	5,827	5,955	5,073	4,246	4,213
電気・ガス業	98	97	91	97	47	47	58
運輸・通信業	851	910	929	966	1,006	1,016	934
卸売・小売業	3,739	3,608	3,821	3,844	3,084	2,895	2,627
金融・保険業	376	420	369	360	325	273	243
不動産業	51	60	49	58	63	120	146
サービス業	3,810	3,893	4,221	4,659	5,728	5,509	5,447
公務	547	591	656	666	592	626	611
第三次産業計	9,474	9,586	10,140	10,650	10,845	10,486	10,066
分類不能	2	7	4	11	102	76	493
総数	19,873	20,257	20,039	20,269	19,375	17,648	17,552

資料：国勢調査



資料：国勢調査

(2) 産業別の現状と課題

① 第一次産業

水稲とりんごを主とした農業を中心に発展してきました。

水稲は、「つがるロマン」、「まっしぐら」など県の奨励品種を中心に栽培されておりますが、平成27年度産からは、青森県初の「特A」を取得した「青天の霹靂」の作付地域に編入されています。しかし、近年は米価の下落など先行きが不透明な状況が続いています。

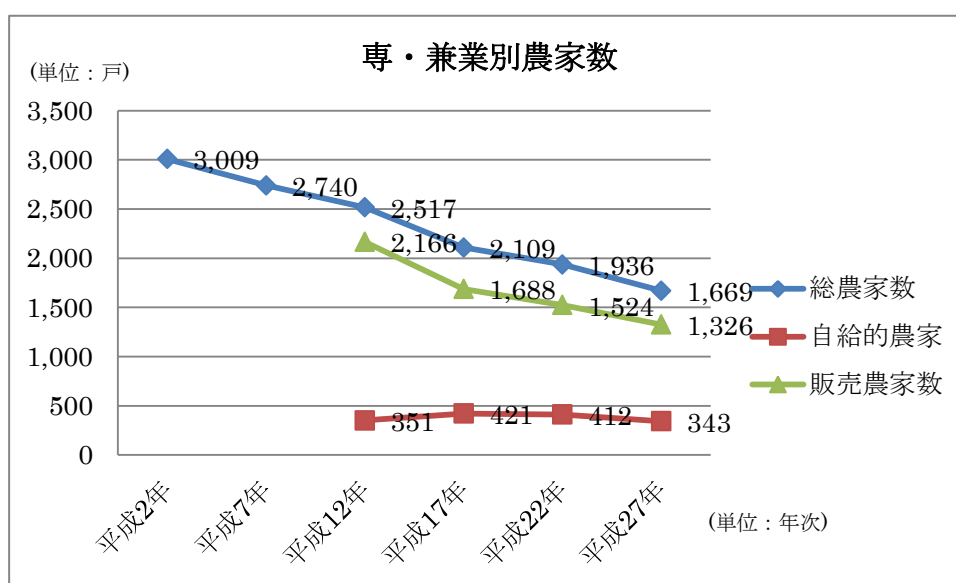
りんごは、優良品種の栽培や輸出による市場の拡大等により、販売額が好調に推移していますが、農業従事者の高齢化や後継者問題など担い手不足が課題となっています。そのため、水稲とりんごに次ぐ高所得農産物の確立に向け検討しているところです。

専・兼業別農家数

(単位：戸)

年次	総農家数	自給的 農家	販売 農家数	販売農家			
				専業農家	兼業農家	兼業農家の内訳	
						第1種 兼業農家	第2種 兼業農家
平成2年	3,009			308	2,701	820	1,881
平成7年	2,740			317	2,423	804	1,619
平成12年	2,517	351	2,166	297	1,869	639	1,230
平成17年	2,109	421	1,688	300	1,388	545	843
平成22年	1,936	412	1,524	376	1,148	445	703
平成27年	1,669	343	1,326	419	907	326	581

資料：農林業センサス



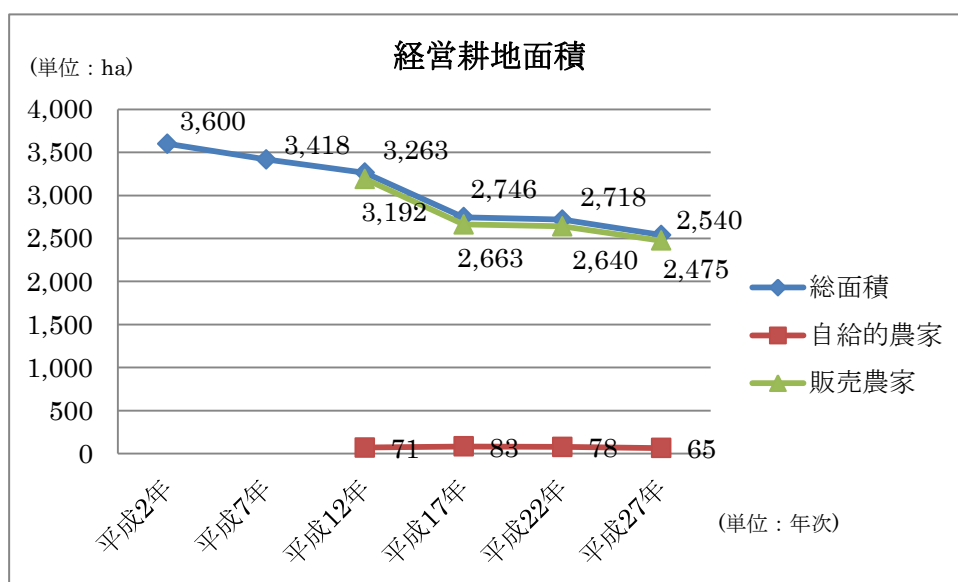
資料：農林業センサス

経営耕地面積

(単位：ha)

年次	総面積	自給的 農家	販売農家	販売農家			
				田	畑	うち 普通畑	樹園地
平成 2 年	3,600			1,966	257	216	1,377
平成 7 年	3,418			1,816	266	259	1,336
平成 12 年	3,263	71	3,192	1,737	227	226	1,227
平成 17 年	2,746	83	2,663	1,401	197	147	1,065
平成 22 年	2,718	78	2,640	1,436	180	116	1,025
平成 27 年	2,540	65	2,475	1,345	141	113	989

資料：農林業センサス



資料：農林業センサス

②第二次産業

業務用機械器具製造、電子部品・デバイス・電子回路製造などの製造業を中心に、比較的安定した経営状況となっており、就業人口は微減していますが、製造品出荷額の一部は増加傾向にあります。今後も誘致・留置活動を行い、産業振興と雇用確保を目指しますが、工業団地が完売していることから、既存企業などが活動しやすい環境づくりを検討しているところです。

③第三次産業

横町・中町・前町・市ノ町・上町・一番町で中心商店街が形成されていますが、個人消費の低迷、消費者ニーズの多様化、郊外への大型店の進出、後継者不在や店主の高齢に伴う自然廃業などで衰退の一途をたどっており、商店街の魅力が損なわれ、町の形態自体が崩壊しかねない状況になっています。今後は、中心市街地活性化基本計画を策定し、地域経済の活性化に向けた環境づくりを検討しているところです。

なお、近年は医療・福祉分野の増加が目立っているのが特徴です。



北地区工業団地



津軽黒石こみせ駅

第3章 黒石市における六次産業化の現状と課題

1. これまでの市の取組

市では、平成23年度から、国、県、弘前圏域定住自立圏連携事業のほか市単独事業により、農業者の六次産業化の支援、商工業者の農商工連携の支援を食産業として実施していますが、規格外の農産物等を活用した加工などの取組は、それ以前から行われていました。

市がこれまで実施してきた支援事業は次のとおりです。

○ABC（あおり食品ビジネスチャレンジ）相談会支援


「食」産業の充実・強化を着実に推進するため、県内の農林水産物等を活用し、付加価値の高い商品づくりやこれに伴う事業拡大等に取り組む事業者を対象に、支援制度などの情報提供や具体的なアドバイスをする県の事業に、本市職員も同席し県と連携して事業者を支援しています。【県：平成23年度から実施 市：平成26年度から連携】

【取組事例1】

取組名 (取組者)		「Uターン新規就農者の六次産業化へのチャレンジ」 (和の農家 かとう農園)
取組内容		<ul style="list-style-type: none"> ・甘みと酸味のバランスがよい「麗夏トマト」の完熟だけを使った食塩無添加ストレートジュースの開発。素材の味を活かし、離乳食等にも安心して使える商品とした。 ・自社農園のブランド化のためのロゴマーク等を作成し、農産物の販路拡大も視野に入れた。
農産物・加工品等		<ul style="list-style-type: none"> ・トマト果汁 100%ストレート(720ml) ・トマト果汁 100%ストレート(180ml)
段階別特徴	生産 (一次)	・JA津軽みらいのトマト生産マニュアルに基づいた生産
	加工 (二次)	・自社で栽培した規格外品の完熟トマトを使用した委託加工による製造
	販売 (三次)	<ul style="list-style-type: none"> ・津軽こみせ駅、津軽伝承工芸館など土産店での委託販売 ・自家直売



【取組事例 2】

取組名 (取組者)	「黒石の農家女性のくらしを伝え、農業活性化」 (くろいし・ふるさと・りんご村)	
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとつひとつ子供のように大切に育てたりんごを使った手作りの無添加ジャムの開発。 ・希少価値の高い「紅玉」と人気の「ふじ」の2種類。パッケージには、津軽の伝統工芸であるこぎん模様を添えて手作り感をアピールし、高齢者でも開封しやすいようにレトルトパウチタイプとした。 	
農産物・加工品等	<ul style="list-style-type: none"> ・りんごいとし 紅玉ジャム ・りんごいとし ふじジャム 	
段階別特徴	生産 (一次)	・ J A津軽みらいのりんご生産マニュアルに基づいた生産
	加工 (二次)	・ 会員の園地で栽培した規格外品のりんごを使用し、自社加工場でひとつひとつ手作りで製造
	販売 (三次)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青森県アンテナショップ「あおもり北彩館」での委託販売 ・ 津軽伝承工芸館、あっぷるはうすなど土産店での委託販売 ・ 自家直売

○弘前圏域定住自立圏連携事業（産業振興分野）

圏域の豊富な農産資源等を活用した付加価値の高い商品づくりや販路開拓に取り組む事業者を支援するための体制を整備する圏域事業に、本市職員も同席し地域ぐるみで事業者へのアドバイスや見本市等への出展を支援します。【平成23年度から連携】

○食産業促進勉強会事業

農林水産業者と中小企業者が会える場を設けた上で、初心者でもわかりやすい食産業の勉強会を開催。ビジネス視点からの指導等を行い、意識改革に取り組むとともに「地域ぐるみ」での農商工連携及び六次産業化の促進を図り、販路拡大や農家所得の向上を支援します。【平成26年度から平成28年度まで実施】

○黒石市地元産業魅力度アップ事業

中小企業者等が持つ独自の技術、製品及び工芸品の販路拡大と新規需要開拓を促進するために、市内の中小企業者等が見本市等へ出展する費用の一部を補助し、本市産業の活性化と発展に資することを目的とします。【平成26年度から実施】

○黒石市と地方独立行政法人青森県産業技術センターとの連携・協力に関する協定

相互に密接な連携と協力により、地域の課題に迅速にかつ適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に寄与することを目的とします。【平成27年度から実施】

○黒石市青年農業経営塾「夕学講座」事業

若手就農者が、将来に亘り持続可能な力強い農業を実現できるよう、現在抱えている経営上の課題について、農業経営の講座や総合相談会、現地視察などを実施し、就農後をサポートし課題解消を図ることを目的とします。【平成28年度から実施】

○黒石市新商品開発支援事業

中小企業者及び農林水産業者が新商品開発や販路拡大と新規需要開拓を促進するために行う既存商品のブラッシュアップ等に要する経費を支援することにより、商品の高付加価値化、経営の多角化、所得向上、雇用創出など、本市産業の活性化と発展に資することを目的とします。【平成28年度から実施】

2. 農業者等の取組状況と課題

本市の「六次産業化・地産地消費」に基づく総合化事業計画の認定を受けた者（以下「総合化事業計画認定事業者」という。）と「農商工等連携促進法」に基づく農商工等連携事業計画の認定を受けた者（以下「認定農商工等連携事業者」という。）の状況は次のとおりです。

○総合化事業計画認定事業者（社名等は認定時点での名称）

- ・(株)青森りんごランド（平成23年）
- ・(有)つがる（平成24年）
- ・(有)石田・農園（平成26年）

○認定農商工等連携事業者（社名等は認定時点での名称）

- ・(有)黒石納豆（平成21年）
- ・食菜八幸（平成22年）
- ・(株)ツガルサイコー（平成25年）

近年、新規の認定事業者はなく、伸び悩んでいる状況となっています。農業者が、農産物の規格外品を活用した加工品を製造しても、商品化して販売するといった農業者と商工業者との連携は、活発に行われているとは言い難い状況であります。

今後は、農林水産業者と商工業者の交流を積極的に行った上で、連携強化を図りながら、それぞれの強みを活かした取り組みを行い、地元農産物を活用した新商品開発等を促進する必要があります。

第4章 六次産業化の推進

1. 基本目標

各分野の強みを活かし、連携強化を図る

地域ぐるみの「食ビジネス」の振興で地域ブランド力の向上

本市が六次産業化を推進する目的は、食関連企業や地元農林水産業者等へ、食ビジネスに関する基礎知識の習得や意識改革を図り、地元農産物を活用した高付加価値商品の開発や販路拡大、新規需要開拓を支援し、意識啓発からブランド化まで一貫した支援をすることで、農林水産業者等の所得向上を図り、地域経済の活性化を目指します。

※本市は、食産業を新たなビジネスと捉え、「食ビジネス」と位置付けています。

2. 推進方策と推進体制

(1) 六次産業化に取り組む農林水産業者等の育成

- 目的：「経営を意識しながら地域に根付いた農業」
- 対策
 - ①生産、加工、販売等に関する研修会や相談会を実施
 - ②基礎知識の習得や意識改革に取り組みやすい環境を整備
 - ③女性をはじめとした若者等が農業に取り組みやすい環境を造成
 - ④組織化・法人化といった多様な経営体系に取り組める相談体制を構築
- 関連事業：ABC相談会支援、食産業促進勉強会事業、黒石市青年農業経営塾「夕学講座」事業

(2) 農林水産業者と商工業者等の連携強化

- 目的：「地元農産物の活用拡大や高付加価値化」
- 対策
 - ①異業種間での交流機会を実施
 - ②異業種間の情報交換により相互間の強みを活かした地域ぐるみの連携活動を推進
 - ③県外に向けて出展する既存商品のブラッシュアップや高付加価値化、経営の多角化などの課題についての相談体制を構築
 - ④農商工業者間の連携やマッチング機会を創出
 - ⑤地元農産物を生産、加工、販売するため、農業協同組合との連携を強化
- 関連事業：ABC相談会支援(再掲)、食産業促進勉強会事業(再掲)

(3) 魅力ある商品づくりの推進

- 目的：「農林水産業者等の所得向上」
- 対策
 - ①地元農産物を活用した高付加価値商品の開発を支援
 - ②農商工連携の活動により、自分の商品を見つめ直す機会を発掘
 - ③生産物に対する自信をアップさせ、ブランドを意識した商品づくりを推進
- 関連事業：ABC相談会支援(再掲)、食産業促進勉強会事業(再掲)、黒石市新商品開発支援事業

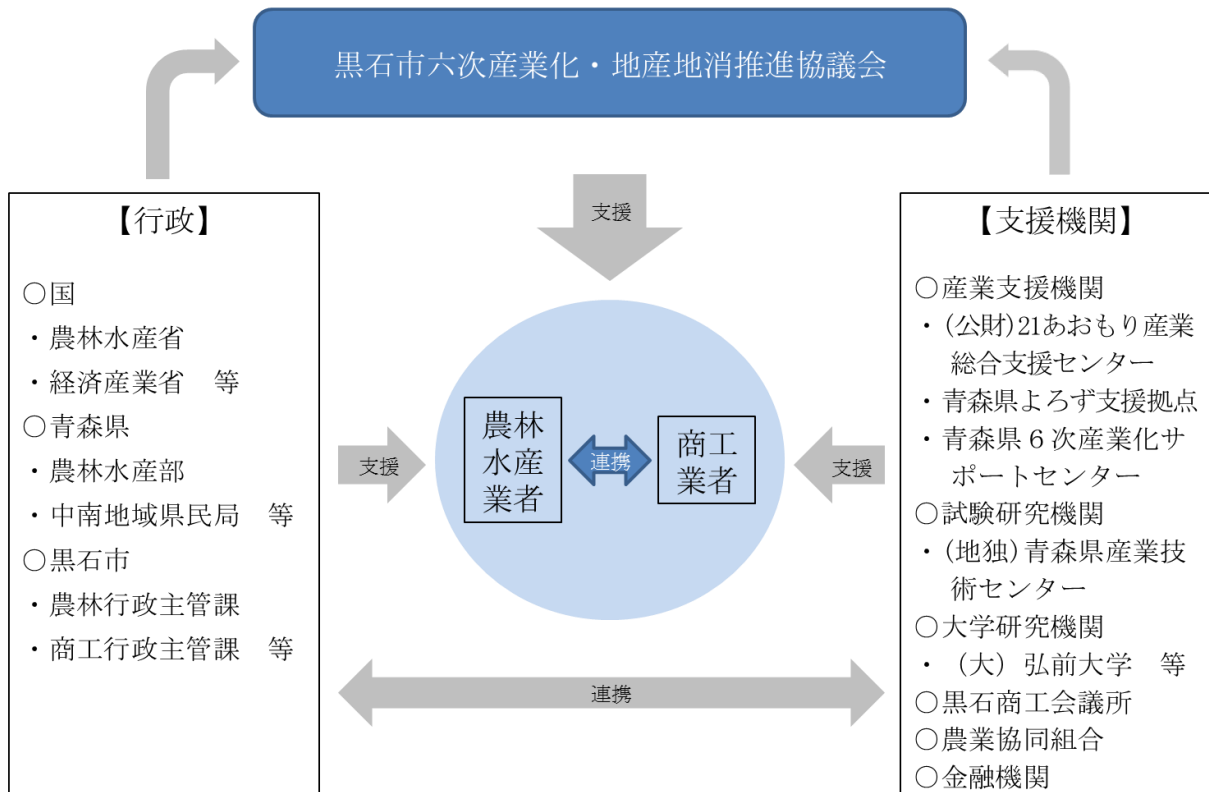
(4) 販路拡大や新規需要開拓の推進

- 目的：「効果的・効率的で持続可能な販売促進活動の展開」
- 対策
 - ①関係団体との情報共有
 - ②消費者ニーズに応じた販売や差別化を意識した売り込みを実施
 - ③見本市等を活用した販路拡大
 - ④新規需要開拓に係る支援を実施
 - ⑤ブランド力向上に取り組みやすい環境を整備
- 関連事業：弘前圏域定住自立圏連携事業（産業振興分野）、黒石市地元産業魅力度アップ事業

(1)～(4)を具体化する推進体制

【食ビジネス推進体制の確立】

- 目的：「関係機関との連携に構成された食ビジネスによる地域経済の活性化」
- 対策
 - ①「黒石市六次産業化・地産地消推進協議会」を中心にするネットワーク体制構築
 - ②食ビジネスに取り組む事業者等を地域ぐるみで支援する体制を充実
 - ③六次産業化等を支援する産業支援機関や試験研究機関との連携強化
 - ④実需者のニーズを把握し食ビジネスに取り組みやすい環境を整備
- 関連事業：黒石市六次産業化・地産地消推進協議会、黒石市と(地独)青森県産業技術センターとの連携・協力に関する協定



3. 黒石版商品づくり推進イメージ

(1) 農林水産業者による六次産業化の推進

一次産業としての農林水産業と、二次産業としての製造業、三次産業としての小売業等の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す商品づくりを推奨する。【主な事業主体は、農林水産業者】

(2) 中小企業者による食産業の推進

農林水産業者と中小企業者が互いの「技術」や「ノウハウ」を持ち寄り、有機的に連携することにより、新しい商品やサービスの開発・提供、販路拡大に関する取り組みを推奨する。【主な事業主体は、中小企業者で、共同事業体は、農林水産業者】

(3) 販売者が希望する商品づくりの推進

販売者が希望する商品づくりを、販売者、製造者、原料生産者が互いに連携することで、得意分野に専念することができ、低コストで効果的な商品づくりが可能となる取り組みを推奨する。【主な事業主体は、販売者で、共同事業体は、中小企業者や農林水産業者など関連する事業体】

4. 地域の特性を生かした作物の振興

六次産業化等に取り組むうえで重点的に活用を図る農産物については、下表のとおりとします。

区分	品目
水稲・転作作物	米、大豆、小豆、そば
果樹	リンゴ、モモ、ブドウ、オウトウ、ブルーベリー、カシス
野菜	トマト、ミニトマト、アズパラガス、イチゴ、ホウレンソウ、ニンニク、大根、人参、枝豆、オクラ、カブ、カボチャ、キヌサヤ、キャベツ、キュウリ、ササゲ、サツマイモ、シソ、食用菊、スイカ、セルリー、タマネギ、トウモロコシ、長芋、ナス、ニラ、ネギ、白菜、馬鈴薯、ピーマン、フキ、ブロッコリー、みょうが、メロン、レタス、花き
畜産	鶏、牛、羊
水産	イワナ、ヤマメ、ニジマス、アユ等

5. 推進目標値

目標項目	現状値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 34 年度)
○総合化事業計画認定事業者数	3 件	5 件
○農林水産業者と商工業者等との連携による取組件数	1 件	3 件
○農産加工品開発の相談件数	5 件	10 件
○農産加工品の販路開拓機会の創出	1 件	5 件

6. その他

前記に掲げるもののほか、食ビジネスを推進するために、必要な支援を行っていきます。



黒石市六次産業化推進戦略

発行日	平成30年3月
発行	青森県黒石市 〒036-0396 青森県黒石市大字市ノ町 11-1 TEL 0172-52-2111
企画・編集	黒石市農林部農林課